

令和5年度

上宮学園中学校・上宮高等学校

学校計画と学校評価

1

建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、中学生・高校生として生徒一人一人が、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と意思を持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。掃除とは文字通り身の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。学問は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探求心や自らの疑問を解決する能力としての智慧を養うことである。すなわち、先ず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずと身に備わり、その真価を発揮できることを示している

2

教育目標（目指す学校像）

- ① 建学の精神を可視化した「上宮ループリック」にある具体的な教育指標をもって、心の教育を実践する。
- ② 中学生には、基本的な生活習慣と学習習慣を定着させるとともに、様々な行事を通して個性・独自性を育て、「人間力」の礎を作る。
- ③ 高校生には、大学進学等に必要な学力の養成と進路学習に重点を置くとともに、生徒の自己実現、社会参加および社会貢献に目標を持たせ、自立（自律）と社会で生きる共生の精神を育成する。
- ④ 教員は教育活動を通して社会貢献を行うという志を持ち、在校生・卒業生が上宮人として誇りに思う学校を目指し、生徒の将来に思いを寄せるとともに、いつでも卒業生を温かく迎える気持ちを持ち続ける。

3

中期的目標

- I 建学の精神に基づいた人材を育成する
- II 生徒の学力・進学実績の向上を目指す
- III 生徒の学校生活の充実と教育環境の発展を目指す
- IV 広報活動の戦略を立案し、志願者の質の向上と人数確保を図る
- V 健全かつ安定的な財務・経営を目指す

4

中期的目標に基づく、学校の本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

（A：目標が「達成できた」、B：「7割以上が達成できた」、C：「4割以上が達成できた」、D：「ほぼ達成できなかった」）

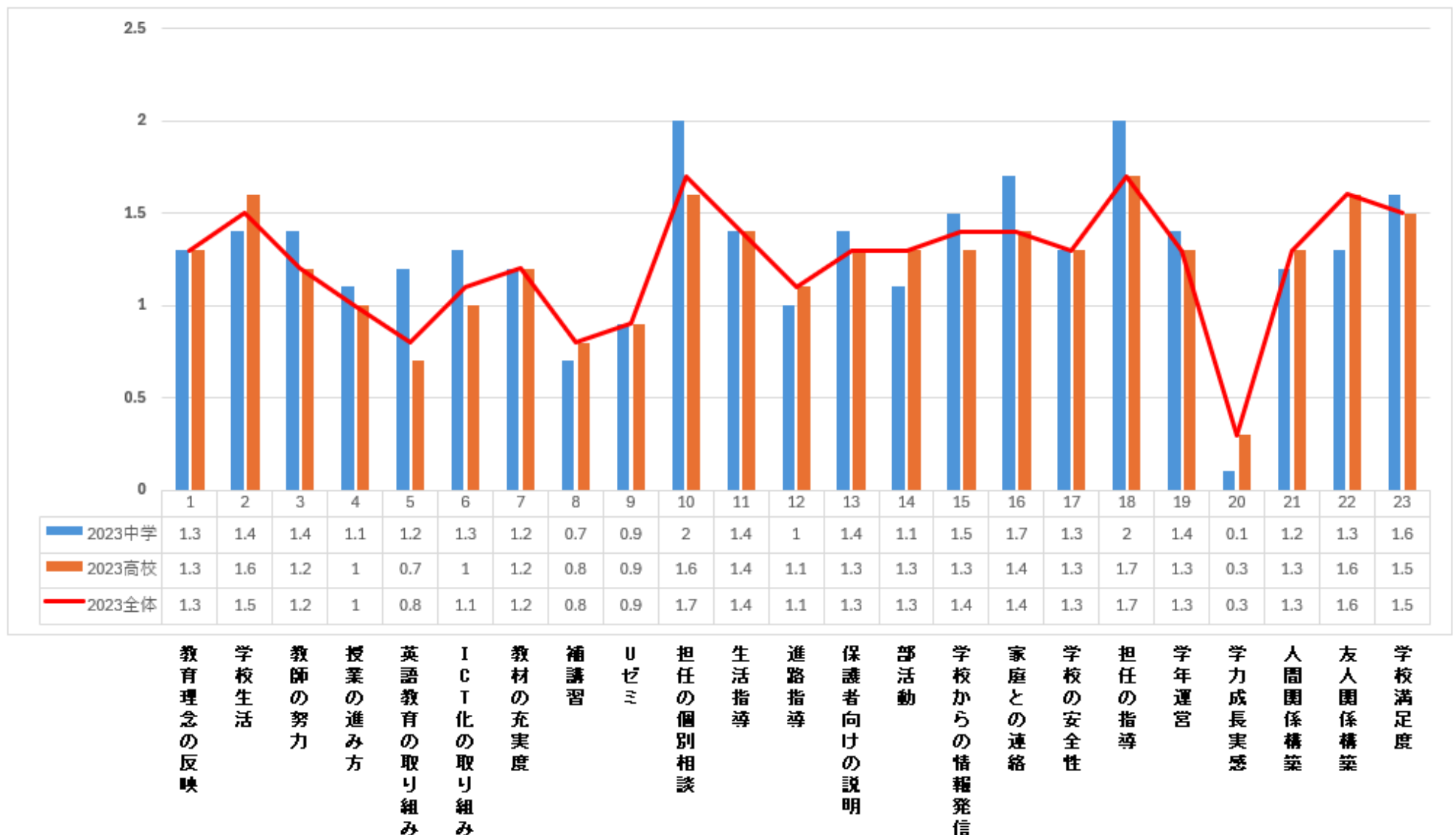
中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
I	(1)宗教的情操教育による人間性の涵養	(1)①宗教科を中心に授業を通して宗教作法（合掌・黙想・焼香）を身に付けさせる ②宗教行事を通じて宗教情操を身に付けさせる	(1)①授業担当者による点検 ②生徒への振り返りアンケートの実施	A (1)①全ての授業の始めに合掌などの宗教作法を実践できた。 A ②全ての行事において宗教情操教育を実践させた。
	(2)上宮ループリックの定着と改良	(2)①新入生への説明会の実施 ②ループリックに関する職員会の開催（教員理解、改良、キャリアパスポート関連含） ③ループリック使用頻度の確認 ④探究活動と融合させる	(2)①説明会の実施 ②職員会の実施 ③Classiでの確認 ④Classiでの可視化	B (2)新入生は実施できたが教職員へ浸透できなかったかは疑問が残る。 C また回答率も抜本的な改革の必要性を感じた。
	(3)スクール・ポリシーの作成	(3)企画会等での立案・作成	(3)2学期末までに作成	A (3)作成し、HP上に掲載している。

Ⅱ	(1)教育システムの改良 (2)教育力の向上 (3)英語教育の充実 (4)中学生の学力向上への取組み (5)放課後の学習活動の充実 (6)生徒の学習意欲の向上 (7)観点別学習状況の評価	(1)①コース再編の決定 ②新カリキュラムの再考 (2)①教科におけるシラバスの作成 ②模擬試験の分析会 (コース目標の決定・記録・報告) ③教科の授業研究 ④管理職と教科主任・学年主任との分析会 ⑤上記①～④のための定期的な教科会の開催 (3)①語学研修の計画と再開 ②海外大学との交流と連携 (4)①学力推移調査および各種検定等の目標設定(コース目標の決定・記録・報告、事前学習の徹底) ②学力向上の具体的方策の提示 ③定期的な職員会議の開催 ④学習イベントの計画・実施 ⑤カリキュラムの改訂 (5)①補講習の実施内容の可視化 ②UゼミはU-siteを用いた内容の周知・募集を行う ③自学自習体制の確立 (6)①学習イベントの設定 ②大学見学会の充実 ③大学説明会の実施 (7)Blend との連携	(1)①1学期4月末まで ②1学期末まで (2)①1学期中 ②学期末に職員会議で報告 ③実施回数 ④実施回数 ⑤実施回数 (3)①実施実績 ②Plymouth 大学との交流 (4)①1学期中 ②学期末に職員会議で報告 ③実施回数 ④具体的設定 ⑤改訂実績 (5)①学校評価アンケートでの数値化 ②学校評価アンケートでの数値化 ③通常授業時の自習教室の運営 (6)①具体的設定 ②実施内容 ③実施内容 (7)1学期中旬まで	B A B C B A A C B C A A B A A A A A A D A B A B	(1)①検討はしたが、来年度に繰り越し。 ②来年度より施行。 (2)①検討を行ったが作成には至っていない。 ②実施出来ていない。 ③④適正回数の実施には至らなかった。 ⑤定期的に開催。 (3)①オーストラリア・セブ島の語学研修を再開した。 ②Plymouth 大学との交流までには至らなかった。 (4)①コース残留基準は確定したが、検討中の項目がある。 ②実施には至らなかった。 ③不定期であったが実施。 ④計画途中で実施されていない。 ⑤改定途中。 (5)①②学校評価アンケート項目に入れ数値化した。 ③定期考査前に担任の監督の下実施。 (6)①夏期講座を実施した。 ②国公・私立大学の見学会を実施した。 ③校内で大学ガイダンスを実施した。 (7)様々検討し、方向性は完成し、実施している。
Ⅲ	(1)アフタースクール計画の構想 (2)「ICT」環境の充実 (3)安全・安心な学校を目指す	(1)①状況調査を行う ②財源の確保 (2)授業における iPad 利用の充実(思考力向上) (3)①いじめ防止対策委員会の定期的開催 ②危機管理マニュアルの見直しと教員への周知 ③職員研修の企画と実施	(1)①計画表の作成 ②予算の立案 (2)模擬試験での評価 (3)①開催頻度 ②改正実績 ③実施回数	D A B A B	(1)①②検討を行ったが、来年度に繰り越し。 (2)授業における「ipad」の使用はかなり浸透した。 (3)①定期的に開催した。 ②③企画、実施回数共に適正であった。
Ⅳ	(1)状況の変化に応じて効果的な入試広報を検討 (2)広報費用の精査をおこなう	(1)①受験以前の市場調査に取り組む ②入学者アンケートを4月当初に実施する (2)海外広報を含め、広報項目から削除項目と追加項目を検証し、効率化を図る	(1)①1学期中に調査内容を精査。 ②1学期末に分析結果を出し、(2)に反映する。 (2)3学期末に公表する。	B A A	(1)①検討はしたが、実施に至らなかった ②入学者アンケートを中学・高校で実施し、(2)に反映させた (2)海外広報については費用等を最低限度に抑え、効果的な広報活動を展開した
V	(1)事業計画に基づく財政計画の策定 (2)強固な財政基盤の確立 (3)社会変化に対応できる組織力確立 (4)学園ブランドの確立	(1)教育環境の整備計画推進 (2)①教育改革推進のための収支構造の改善 ②法改正等による諸制度の見直し (3)①「働き方改革関連法」に則した勤務体制を整備する。 ②教職員人事制度改革の検討。 (4)①同窓会・保護者会・産業界との連携強化 ②地元地域との交流 ③生徒募集に向けての発信力の強化	(1) ICT 教育環境の整備 (2)①計算書類 ②就業規則等の改訂 (3)①変形労働カレンダーの作成 ②就業規則等の改訂 (4)①総会及び行事での交流 ②学園設備の出や行事での貸交流 ③入試対策部・広報係との連携	A B B A	(1) BLEND 等の環境も安定している。 (2) ①業務効率化を進めているが再検証が必要 ②原案作成 (3) ①繁忙期と閑散期のメリハリが付いていない ②組合との協議中 (4) ①コロナ明けによる行事の復活で交流が深まった ②③地域集会参加と図書館貸出

5 学校評価アンケートの結果と分析

例年と同様にClassiを利用したアンケート調査形式を採用した。中高の保護者1485名から回答を頂き、回答率は回答率は62%(中学70.2%、高校53.1%)と昨年63%(中学64%、高校62%)をやや下回った。質問事項は下記の23項目であるが、質問文5,6のように英語教育、ICT化についての質問を追加した。また、昨年の「図書館や体育館などの学習環境の整備」「保健室や食堂等、安全で健康的な生活環境の整備」についての質問は削除した。23項目において4段階評価とし、最高評価を3点、最低評価を-3点として平均値を算出した。基準としては「2.0以上…目指すレベルをクリアしている、1.0以上…最低限クリアしている 0.5…早急な対策を要する 0以下…即時の対策が必要」と認識している。

No	2023 学校評価質問文（ご提案）	短縮表記
1	教育理念が教育活動全般に反映されていると感じますか？	Q1 教育理念の反映
2	お子様の学校生活は楽しく充実していると思いますか？	Q2 学校生活
3	教師は生徒の学習意欲を高める努力をしていると思いますか？	Q3 教師の努力
4	お子様から聞かれて、授業の進み方には満足していますか？	Q4 授業の進み方
5 (追加)	英語教育に関する取り組みは充実していると思いますか？	Q5 英語教育の取り組み
6 (追加)	本校のICT化への取り組みは充実していると思いますか？	Q6 ICT化の取り組み
7	教材やテキストは充実していると思いますか？	Q7 教材の充実度
8	平常の補習習は、進路実現に向け充実していると思いますか？	Q8 補習習
9	Uゼミ（英検対策、オンライン英会話を含む）は、進路実現に向け充実していると思いますか？	Q9 Uゼミ
10	担任は親身になって個別的な相談に応じてくれますか？	Q10 担任の個別相談
11	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われていますか？	Q11 生活指導
12	将来の進路や生き方についての指導が十分なされていると思いますか？	Q12 進路指導
13	進路及び教育活動に関する保護者説明会や懇談会は充実していると思いますか？	Q13 保護者向け説明
14	部活動は活発で内容が充実していると思いますか？	Q14 部活動
15	学校からの通信や文書は、学校の様子が家庭に良く伝わる内容になっていますか？	Q15 学校からの情報発信
16	学校や教師は家庭との連絡を大切にしていると思いますか？	Q16 家庭との連絡
17	本校の防犯、防災、安全管理への対策は十分だと思えますか？	Q17 学校の安全性
18	現在のお子様の担任の指導には満足されていますか？	Q18 担任の指導
19	現在のお子様の学年の運営には満足されていますか？	Q19 学年運営
20 (修正)	我が子は期待している通りの学力的成長をしていると思いますか？	Q20 学力成長実感
21 (追加)	我が子は学校生活を通して人間的に成長をしていると思いますか？	Q21 人間的成長実感
22	学校はよい友達関係を築く場になっていると思いますか？	Q22 友人関係構築
23	本校を選ばれたことに満足されていますか？	Q23 学校満足度



6 学校評価の総括

令和5年度は、新型コロナウイルスの影響も薄れつつあり、体育大会は通常通り行い、文化祭は来場者を制限しての実施となった。高校生の修学旅行の行き先も海外へとなり、本来の教育活動を取り戻してきた。しかし新たに様々な問題点も見えてきた。2023年度学校計画・学校評価の項目については、概ね達成できたようであるが、Ⅰ(2)「ルーブリック」、Ⅱ(1)「コース再編の決定」の項目の達成度が低かった。「ルーブリック」については、内容が生徒へ浸透しにくく特に高校生の回答率が50%を切っていた。次年度はもう少し具体性をもった内容に変更する必要性を感じた。Ⅱ(1)のコース再編については、現在のパワーコースと英数コースとの明確な違いが見いだせないまま現在に至っているが、これらのコースが目指す帰着点を具体的に示すべきではないかと考える。

学校評価アンケートでは、Q5「英語教育の取り組み」、Q6「ICT化の取り組み」そしてQ20「学力成長実感」の項目を追加した。Q5では中学校と高校とで差がついた結果となった。中学校では一学年のクラス数が少ないことを活かし、ネイティブでの授業、少人数制による授業の展開そして暗唱大会など、英語に親しみかつ実践的な授業を行うことができたが、一方高校では大学受験を見据えた授業を展開しており、学ぶ方向性の違いが数値の差に表れたと思われる。Q6の「ICT化の取り組み」では、コロナ禍から大きく前進したICT化の度合いを可視化できる数値が表れたと思う。

Q20「学力成長実感」の数値が気になる場所である。学園として真摯に受け止め、問題解決に取り組んでいきたい。ただし、Q8、Q9の項目とは無関係ではないと思われるので、具体的な方策は総合的に考える必要があると思われる。一方で、担任に関わる項目は全てにわたって高評価であった。担任の関わり方の重要性が大切であることが再認識された結果となった。

最後に、今回の保護者アンケートからは、学校運営に保護者の皆様のご理解・ご協力が必須であることが再認識できた。今年度、保護者会活動が再開され、従来の形に戻ってきた。以前のように保護者の方々とのコミュニケーションを通じて、生徒・保護者・学校がともに力を併せ、ともに成長発展していくことを切に望んでいる。

7 学校関係者評価

【建学の精神・教育方針について】

- ・校訓、一枚起請文などを通じて、本校の宗教教育の重要性を説明する必要がある。
- ・正当御忌式及び例月の御忌式の意味合いが希薄になってきているように思う。意味合いを丁寧に説明する必要がある。

【勉強面・進学面について】

- ・「学力成長実感」が低いことが気になるが、自主的に学習に取り組む姿勢が評価に値するのであり、振り返りシートはとても有効的だと思う。
- ・大学卒業後のキャリア意識を高め、進むべき道をはっきりさせて、進学に対して自主的に取り組む力を育む。
- ・中学生には教科の授業だけではなく、教科を超えた取り組みを行い、そこで発見したことをさらに発展させ、自分の特性を理解した上で、具体的に将来を考えさせ、高校での学習のきっかけを作る必要がある。

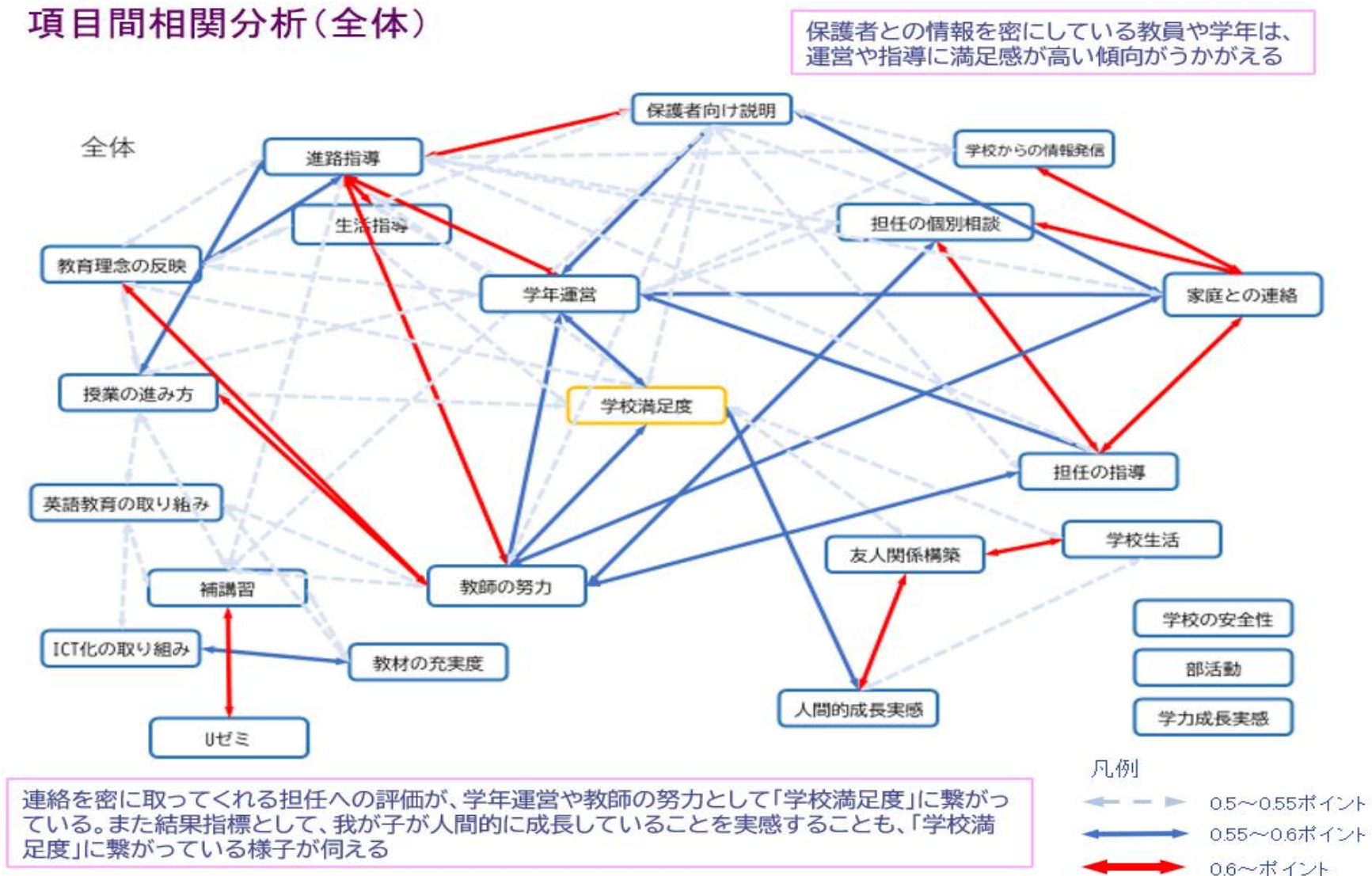
【生活面について】

- ・始業時間の遵守（8時30分時教室）を今一度喚起する必要がある。
- ・スマートフォンの依存は、生活習慣の乱れに大きく影響しているのは明白なので、適切な使用法などの研修会などを行う。

【保護者と学校との関係について】

- ・学校で起こったことは些細なことでも家庭に連絡し、保護者が安心して預けることができる学校にする。
- ・コロナも落ち着き、保護者会活動が復活し、活動も活発化してきた。その活動を媒介として、「学校—教員—保護者」の関係が更に密になり、日々の教育活動に活かすことを望む。

項目間相関分析(全体)



令和５年度 各部署における本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【学年】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
中学１年	(1) 安心できる学校生活の実践に向けた生徒指導の確立 (2) 上宮学園中学校としての新たな取り組みの確立。 (3) 基礎学力の育成と定着に向けた、学習指導面への取り組み (4) 人間教育の充実化 (5) 校外学習、スキー実習等の行事企画と運営	(1) 教員間の情報共有を密にし、学年全体で生徒指導にあたる。学校生活の送り方などを指導していく。 (2) 学年会の開催を定期的に行う。 (3) 学年集会やホームルーム、保護者説明会を活用し、教育方針、進学規定等を周知徹底する。適切な課題を与え、早朝テスト、補講習を実施する。 (4) ホームルーム等での生徒への伝達，指導する。 (5) 学年の会議や，職員室にての議論の充実。	(1)生徒指導頻度での評価。 (2)学年の会議の回数 (3) 早朝テストの実施回数や課題の数 (4)振り返りシートを実施 (5) 行事の回数やブラッシュアップされた行事の実施。	(1) A (2) B (3) A (4) A (5) A	(1) 学年団で情報の共有を密にできていたおかげで、問題行動もいち早く確認でき対応できた。 (2) 学年会の機会を多く設けられ、行事や取り組みへいろいろなアイデアを共有でき実施できた。 (3) 英語、数学、国語で早朝テストを実施できた。英語では居残り学習も実施することができた。また、学年会を学期毎に開催し、日々の生活態度指導やルールの徹底などが出来た (4) 各担任の先生より、ホームルームで伝達がスムーズにできた。保護者からの連絡も学年で共有することで対応が適切にできた。 (5) 会議内容を事前に連絡し、意見や情報を発信しやすい雰囲気を作ることができた。
中学２年	(1) 基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた指導。 (2) 保護者との連携による家庭学習習慣の定着と自学自習力の育成。 (3)上級生としての自覚と生活態度の向上を促す。 (4) 教員間の情報の共有を促進する。	(1) 今年度から，希望制の講習を週３日行う。科目は英語，数学，理科，社会。また，昨年度同様，考查前に自習室を開放する。早朝テストなどを実施する。 (2) Classi のメッセージ等で密な連絡を取る。 (3) ホームルームや学年集会などを利用し，生徒に周知させる。また，授業においても２年生という自覚を持たせる。 (4) Classi などを通じ，情報を流す。	(1)講習の実績，自習室の回数などで評価する。 (2) 実施回数や課題提出の回数や有無により評価する。 (3) 学年集会などの回数で評価。 (4) 実施回数により評価する。	(1) B (2) A (3) C (4) A	(1) 中１のころに比べれば，基礎学力は定着してきたように思う。しかし，生活習慣を含めまだまだ定着度合いを深めねばならない。 (2) 保護者もかなり学校に慣れてきており，教員との相互理解も深まってきたと思われる。 (3) 中１が入ってきたが，上の中３もいるためいまいち上級生としての実感がない。中３は最上級生となるので，自覚できるであろうと思う。 (4)LINE グループや Google ドライブの共有フォルダなどを駆使しており，教員間の情報共有は満足いくものである。実際に学年会を開かずとも情報伝達や各教員の意図がわかるので学年会の少なさが別の意味で情報共有の事実を物語っているのではないかと思う。
中学３年	(1) 上宮学園中学校としての方針の徹底。（進学規定等） (2) 学習習慣を定着させる教科指導への取り組み。 (3) 基本的生活習慣を定着させる生徒指導の確立。 (4) 教科、分掌、学年等における連携や情報共有が行き届いた学年運営。 (5) 保護者との連携の充実。	(1) 学年集会やホームルーム、保護者説明会を活用し、教育方針、学校生活の送り方、進学規定等を周知徹底する。 (2) 適切な課題を与え、早朝テストや補講習、放課後居残り学習などを実施する。 (3) 教員間の情報共有を密にし、学年全体で生徒指導にあたる。 (4) 学年会の開催を定期的に行う。 (5) 保護者説明会の実施と学校 ICT 化の充実を行う。	(1) 学年集会やホームルーム、保護者説明会の実施回数で評価する。 (2) 実施回数で評価する。 (3) 学校生活における注意観察状況と指導頻度で評価する。 (4) 実施回数で評価する。 (5) 実施回数と充実度で評価する。	(1) A (2) B (3) A (5) A (5) B	(1) 学年集会やホームルーム等で生徒向けの実践と周知徹底を行い、学校の基本方針および進学規定については、保護者説明会や HR を通じて伝え、理解していただけた。 (2) 放課後居残り学習や進学特別補習、受験対策演習などを実施し、学力向上に努めたが、少し生徒の取り組みに中だるみ感が出てしまった。 (3) 昼食時の注意観察や休み時間の廊下での見回りを実施するとともに、生徒個人との面談機会も多く取り入れることができた。教員間での情報共有もしっかり行えた。 (4) 学年での情報共有を密にすることができた。 (5) Classi や電話での日々の連絡を盛んにすることで、つながりを密にできた。

高校1年	(1) 基本的な生活習慣を身につける (2) 学習習慣の確立 (3) 教員間の連携 (4) 将来につながる進路指導	(1) 二者面談を活用する (2) メリハリのある生活態度 (3) 面談を通して活用 (4) 生徒個々に応じた進路指導をする	(1) 学校生活・生活習慣において評価 (2) 面談時に確認する (3) 内容を確認する。 (4) 生徒の進路に対する意識で評価	(1) B (2) A (3) B (4) B	(1) 二者・三者懇談を活用して基本的な学校生活を送れるように指導してきた。 (2) 早朝テストや小テストにより学習習慣の確立してきた。 (3) 学年団への連絡クラッシーにて配信したが周知徹底できない時もあった。 (4) 次年度も大学進学に向けて意識改革を継続する。
高校2年	(1) 基本的な生活習慣を身につける (2) 将来につながる進路指導 (3) 学校行事に積極的な参加 (4) 学年の連携と情報共有	(1) 二者面談を活用する (2) 生徒個々に応じた進路指導をする。 (3) 体育大会・文化祭・修学旅行などクラスで取り組み計画 (4) 学年会の実施と classi の利用	(1) 学校生活・生活習慣において評価 (2) 生徒の進路に対する意識で評価 (3) 行事に対する満足度で評価 (4) 学年会と classi の頻度	(1) B (2) B (3) A (4) B	(1) 二者・三者懇談を活用して基本的な学校生活を送れるように指導を行い遅刻数は減少してきたが、特定の生徒において改善に至らなかった。 (2) 進路指導部からの資料を来年に向けて活かせるように生徒の意識改革を継続する。 (3) 今年度はほぼコロナ以前のような体育大会・文化祭、またオーストラリア修学旅行の実施でき、生徒の満足度は高かった。 (4) 学年間の連絡・連携は Classi を通じて情報共有はできていた。
高校3年	(1) コミュニケーション能力を高め、明確なビジョンを持ち、やり抜く力を持った生徒の育成 (2) 自分の夢の実現に向けて最後までやり抜く力の育成	(1) 希望する進路に対する志望動機を明確に述べられるように指導 (2) ホームルームや面談などを活用し、実践例を提示して指導	(1) 志望理由書を作成させ、評価する (2) 生徒の進路に対するこだわりを、面談を通じて評価する	(1) A (2) A	(1) 予定通り実施できた (2) 概ね実施できた。結果3月末になって合格通知を手にする生徒も出てきた。

【コース】

部 署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
6 か 年	(1) 自律的学習者の実現 (2) 各学年の学力向上策の促進 (3) 将来の自己像の明確化 (4) 体験的なキャリア教育の実現 (5) 6 か年コースとしての独自性の促進	(1) 各教科での学習方法の指導 (2) 各担任の進路指導の共有化 (3) L H R ・探究の有効利用 (4) 自分の進路を自分で決めるという主体性の育成 (5) 六カ年会議等で協議を行う	(1) 考查・模試等の設定目標の達成度合いによる確認 (2) 六カ年会議の中で学年の取り組みにより確認 (3) 懇談・生徒へのアンケート等で確認 (4) 卒業生・上級生からのアドバイスにより確認 (5) 特進・一貫プレップの独自性の実現	(1) B (1) 観点別評価の主体性という部分で自律的学習の意識が上がった。 (2) B (2) コース会議において各学年の取り組みの共有化ができた (3) C (3) アンケートが生かせなかった。 (4) A (4) 定期的に行えた。 (5) C (5) 独自性を出せなかった。
I・II 型	(1) 生徒の学力が向上する指導 (2) 生徒自身による将来の進路の決定 (3) 生徒が希望する進路実現 (4) 自立した学習習慣の指導 (5) コース残留、移動の基準等についての策定・実施	(1) 模擬試験の結果の分析と指導 (2) 担当者による情報の提供のもとに進路を考えさせる。 (3) 各担任の進路指導の共有化 (4) 担当者による学習方法の指導 (5) 残留基準・移動基準を担当者で話し合う	(1) 生徒による模試の数値目標の達成度で確認 (2) 懇談等で担任が確認 (3) 毎回のコース会議で確認 (4) 生徒へのアンケートを行い、分析結果の共有化 (5) 国公立会議で1学期中に策定し今年度から実施	(1) B (1) 模試ごとにマナビジョンを用いて目標偏差値を入力 (2) A (2) 個人面談、三者懇談を活用した (3) D (3) 次年度は各学年での情報級友を目指す (4) B (4) 各定期考查に対しての「取り組み」「振り返り」を活用した (5) A (5) 決定、運用することが出来た
プレ ップ	(1) プレップコースの活性化 (2) 連携・指定校制推薦入試に対する意識の変革 (3) 連携・指定校制推薦に依存しない学力の向上 (4) 生徒の実情に合わせた「パスポート項目」の改定	(1) 行事の見直し（廃止や新規導入）で、生徒の進学意識を高める (2) 説明会等で連携・指定校制推薦がメインの入試でないことを意識づける (3) 模擬試験の復習の徹底などを通して、学力の底上げを図る (4) 年度ごとにプレップ会議で改定について協議する	(1) 業者の教材使用も視野に入れる (2) プレップコース独自の説明会を設ける (3) 「Highschool-online」「Compass」等を利用し組状況把握して指導する (4) 各項目の比重を、あるべき生徒像と照らし合わせて決める	(1) B (1) 各先生方の意見が出しやすく議論になるような環境を作りたい (2) C (2) まだ意識が浸透していないように感じる (3) C (3) 案内等も含めてもっとコマercialをしていかなければ生徒は利用をしない (4) B (4) すこしずつ検討を始めている

【教科】

部 署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
国 語	(1) 基本的国語力の充実 (2) 学力推移調査・模擬試験の全体把握 (3) 補講習の充実 (4) ICT 教育の研究と活用 (5) 新課程の評価基準	(1) 授業の厳正化を図る (2) 学力推移調査、模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (4) 1.みらいスクールの活用やオンライン授業への対応の研究 2.デジタル便覧の活用 (5) 1.新課程の観点別評価基準について理解を深めるため教科会を活用し、観点別評価基準の明確化する	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 1学期中間考査までを期日とする (4) 1.1 学期末を期日とする 2.2 学期末を期日とする (5) 1 学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) A	(1) まだ評価をあげることができる (2) コース・学年により達成度の確認の差がある (3) コース・学年により立案・実施の差がある (4) コース・学年により差がある (5) 教科会等で共有できている
社 会	(1) 聞かす授業内容・工夫の向上 (2) 各コースの基礎学力の定着 (3) 高1,2の新課程への対応に備える (4) 変わりゆく大学入試への適切な対応 (5) アクティブラーニング、ICT教育の研究と活用	(1) 授業の工夫、生徒対応の工夫 (2) 授業の適切化,課題,補講習の充実 (3) 新課程内容の情報の共有と対策研究 (4) 大学の入試問題を解き、教科内で研究,情報共有し,生徒への情報還元 (5) 科目によるP C,みらいスクールの活用とオンライン授業への対応研究	(1) 授業アンケートの数値の向上 (2) 各コースの模試数値目標の達成 (3) 1学期中を期日とする (4) 2学期初頭を期日とする (5) 授業アンケートによる数値化	(1) B (2) B (3) A (4) C (5) A	(1)(2) 各担当者、日々試行錯誤し懸命に取り組んでいるが、依然として改善していく余地はあると思われる。 (3) 高1実施の総合の科目については、過去2年間の実施に基づき、どの内容を扱う事が、生徒のためになるか教科会で情報共有を図り対策を検討している。 (4)正直、今年度は他に議論すべきことが多くあり、科目ごとの担当者任せになってしまった。 (5)各担当者間での多少のばらつきはあるものの、積極的に取り入れた授業展開を行っている。
数 学	(1) 基礎学力の定着 (2) 授業の質の向上 (3) 変わりゆく大学入試への適切な対応 (4) ICT 教育の充実 (5) 新課程の評価基準	(1) 小テストのこまめな実施や問題集をこまめに取り組ませるよう指導 (2) 考えさせる授業や、ICTの活用などで生徒たちが積極的に学習に取り組める授業を実践する (3) 大学の入試問題を解き、教科内で研究し情報共有し、生徒へ情報還元する (4) デジタル教材やグラフソフトの相互活用 (5) 新課程の観点別評価基準について理解を深めるため教科会で検討	(1) 模試の数値目標の達成度合いで確認 (2) 授業アンケートによる数値化で確認 (3) 2学期初頭を期日とする (4) 授業アンケートによる数値化で確認 (5) 1 学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) B	(1) ほぼ達成できていると思われる (2) 向上できていると思われる (3) 皆で入試問題の模範解答を作成し、対応できた (4) 研修会を1度開催できたが、年に複数回研修会ができなかったことが反省点 (5) 教科会で先生方からの情報を共有できていた部分と伝わっていなかった部分とがあった
理 科	(1) 基礎学力の定着 (2) 生徒の学力、進学実績の向上を目指す (3) 補講習の充実 (4) I C T 教育の充実 (5) 新課程への対応	(1) 小テストの実施、実験や授業の活性化 (2) 模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案、実施 (4) ipad を使用しての、デジタル教科書の有効な活用 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 2 学期末を期日とする (4) 1 学期中を期日とする (5) 1 学期中を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) B (5) B	(1) 各科目で取り組んだが、まだまだ組み入れる余地もある。 (2) 各科目積極的に取り組んだ。 (3) 期末考査後の講習を中心に取り組んだ。 (4)ipad 等デジタル機器を利用しての授業を積極的に取り組んだ。 (5)観点別評価を中心に実践を進めた。
英 語	(1) 英語学力の向上 (2) 資格試験の情報提供 (3) 大学入試への適切な対応 (4) アクティブラーニング・ICT教育の研究と活用 (5) 新課程への対応	(1) 小テスト・課題・補講習の充実 (2) 英検等の情報収集と実施 (3) 大学入試の情報収集と共有 (4) 情報収集と実践の共有化 (5) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2 学期末を期日とする (4) 授業アンケートによる数値化 (5) 2 学期末を期日とする	(1) B (2) A (3) A (4) B (5) A	(1) 教科平均 3.48 前年-0.03 (2) 英検中学年 3 回校内実施 (3) 共有できた (4) 教科平均 3.48 前年-0.03 (5) 教科会で情報共有
保 健 体 育	(1)基礎体力の向上 (2)安全教育の推進 (3)規律ある態度の育成 (4)新課程への対応 (5)ICT の活用	(1) 生涯スポーツの為のスポーツに親しむ態度を育てる (2) 安全に注意し事故の無い授業の推進 (3) 自主的に授業に参加する態度を育てる (4) 新課程の内容の周知に対して教科会を活用 (5) ICT 教育の研修、研究	(1) 学年末を期日とする (2) 学年末を期日とする (3) 授業アンケートによる数値化 (4) 学年末を期日とする (5) 2 学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) C (5) C	(1) 概ね出来ているが継続が必要 (2) 幸い大きな事故はなく引き続き推進が必要である。 (3) 概ね出来るところもあるが継続が大切と考える。 (4) まだまだ課題が残る状況で引き続き研究が必要 (5) 積極的に取り組みつつも研修や研究が必要。
芸 術	(1)芸術を親しみ愛好する心情を伸ばす授業の展開 (2)芸術への関心を高めるような内容を構築 (3)表現及び鑑賞の能力を高める指導の充実を図る (4) 授業の実施方法について教科内の連携	(1)作品は肯定的に評価し、表現の多様性を理解させる (2)制作意欲を高める課題の設定 (3)様々な作品を鑑賞させる (4) 教科会の活性化	(1)学年末に感想の提出を求める (2)学期ごとに感想の提出を求める (3)鑑賞会の実施により意見交換する (4)中高担当者同士の情報交換を活発化	(1) A (2) B (3) A (4) B	(1) 動画などを用い、分かりやすく芸術に興味を持てるよう努力した (2) 生徒間の感想の内容に差が大きいので、課題をより詳しく説明したい (3) 芸術鑑賞会含め、様々なアートに触れさせることができた (4)情報交換はできたが教科ごとに個性があるため、評価の仕方などをもっと話し合いたい

家庭	(1)家庭科への興味の向上 (2) 理解度の向上 (3) 授業の質の向上 (4)教科内での情報共有 (5) 新課程の評価基準	(1)生活の基礎知識である家庭科に興味を持ってもらえる工夫 (2)生徒が理解しやすいよう教材等の工夫 (3) ICT を活用し、思考判断力・表現力の向上を図る (4)教科会の活性化 (5) 観点別評価についての対策の研究	(1)学期末を期日とする (2) 授業アンケートにより数値化 (3) 授業アンケートにより数値化 (4) 2 学期末を期日とする (5) 2 学期末を期日とする	(1) B (2) B (3) B (4) C (5) B	(1) 画像や動画を取り入れ工夫した (2) 授業アンケートの結果が向上した (3) 授業アンケートの数値がやや向上した (4)教科の先生の中で意思統一が出来ない先生がいたので難しかった (5)新しい観点別の評価の付け方に工夫できた
情報	(1) 生徒の ICT スキル向上の指導 (2) 情報モラルの育成 (3) プレゼンテーション能力の育成 (4) 共通テスト化に向けての座学の指導の向上 (5) プログラミング指導の研究	(1) 実習課題の工夫を行う (2) 実社会でのモデルを問題とする (3) プレゼンテーションの機会の増加 (4) 教科会での指導の共有化 (5) 新課程での指導を行うプログラミング言語の選定, 研究を行う	(1) 2 学期末を期日とする (2) 2 学期末を期日とする (3) 2 学期末を期日とする (4) 2 学期末を期日とする (5) 学年末を期日とする	(1) B (2) A (3) A (4) B (5) B	(1)探究を含めた実習内容に刷新したが、更なる工夫が見込める。 (2)意識を高めることができた。 (3)高度なスキルを獲得することができた。 (4)情報共有は積極的に行えた。 (5)次年度に向けて、プログラミング教材の研究を行えた。
宗教	(1) 授業内容の精査 (2) 教材研究の質を向上 (3) 教員の質の向上 (4) 宗教行事の充実化 (5) 道徳教育への対応	(1) 教科書を元に何を伝えるか協議 (2) 他校と交流して、情報をえる (3) 教科会で授業動画を検証する (4) 学校と宗教行事を協議する (5) 道徳の教科書を周知する	(1) 授業アンケートで数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2 学期末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 2 学期末を期日とする	(1) A (2) A (3) B (4) B (5) A	(1) 教科書を元にして活発な教科会が実践できた。 (2) 宗門学校の研修会に開催でき情報を得ることができた。 (3) 授業での動画を使つての展開をできた。 (4) 行事を盛り上げることができた。 (5) 道徳の教科書をあまり上手く使いこなせなかった。

【分掌】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
高校教務	(1) 教務に関する事項についての連絡を周知徹底したい。 (2) コロナ禍前の実施状態に戻れるようにする。更にコロナ禍で新たに得られた各行事への取り組みとの融合を考えより実情にあった行事運営を企画する。 (3) 新年度時間割発表での教員への早期周知、日常での円滑な時間割業務を目指す。 (4)紙媒体からデジタル配信への移行 (5) 内規の再検討	(1) Classi および BLEND を使いこなせるように全教員で取り組む。 (2) コロナ禍においても実施できる行事を模索する。特に修学旅行ではコロナ禍においても、より安全に実施できる時期・内容を模索する。 (3) 新年度の時間割発表を早めに行うことで、新年度スタート時の時間割トラブルを防ぐ。日常での時間割変更等の際、教員の確認ミスをなくす。 (4) ペーパーレス化を浸透させられるように周知徹底および端末を使いこなせるようにしていく。 (5)現在の内規を見直し、現状に即した内容に改定していきたい。	(1) 連絡の漏れや抜けが無くなるようにする。 (2)行事や修学旅行において、生徒の満足度の 80%を目指したい。 (3) 時間割作成に困難が生じている現状を打破できるように工夫しなくてはならない。 (4) 配布書類のほとんどをペーパーレス化しつつ、紙媒体でないとならないものを精査する。 (5)2023 年度中に整備する。	(1) B (2) A (3) C (4) A (5) B	(1) 連絡事項は漏れなく周知できている。 (2) かなりの学校行事をコロナ禍以前の内容に戻せるようになった。更に行事に関しては精査し、より良いものを企画運営していく。 (3) 補欠が特定クラスに偏ったため、特定先生への補欠依頼が多くなった。 (4) 生徒・保護者への連絡はペーパーレス化が徐々に進んでいると実感できる。 (5) 新カリキュラムに対応する内規の変更に伴い、以前より必要とされていた内規の整理も並行して手掛けることができ始めている。
中学教務	(1) 保護者への情報伝達の迅速化。 (2) 学年行事の見直しと改善。 (3) ICT の活用を推進。 (4) 標準時数に関連したカリキュラムの検討。 (5) 内規の確認。	(1)連絡手段として便利であるので、生徒・教員ともに連絡等の手段として積極的に活用する。 (2) 新型コロナウイルスの影響により変更した行事の復活等、検討する。 (3) それぞれの授業において、ICT 機器の活用率を高める。 (4) 現在のカリキュラムで標準時数をクリアできるかどうかの検討を進める。 (5) 出欠に関する内容や、観点別評価に関する内容の確認、検討を行う。	(1)生徒・保護者への連絡で Classi を利用した際、「見ました」ボタンの押した率を 90%以上とすることを目標とする。 (2) 授業参観等具体的に提案、検討を重ねる。 (3) 全ての科目での使用を目指す。(夏季などの長期休暇の課題等も含む) (4) 2023 年度中に検討する。 (5) 2023 年度中に検討する。	(1) B (2) B (3) C (4) C (5) A	(1) 連絡を忘れるといったことはなかったと認識しているが、予約配信機能などを利用して、計画的に配信する回数を増やすべきである。 (2)保護者説明会終了後、短時間ではあるが、授業の様子を保護者に参観してもらうことはできた。 (3) 科目や学年によってばらつきがあったので、引き続き使用を進める。 (4) 検討にかけることができた時間は少なかった。 (5) 高等学校と協力し、見直すべき内容を確認し、規定できた。

生活指導	<p>(1)『生活指導マニュアル』の指導方法及びその内容の見直し。そして全教員の統一された指導を実践する。</p> <p>(2)身だしなみを整える(頭髪・上着のボタン、リボン、ネクタイ、アンダーシャツ、化粧)。</p> <p>(3)挨拶を交わす。</p> <p>(4)時間を守る。チャイム登校・遅刻0を目指す。</p> <p>(5)規範意識を持たせることを、生徒の自主性から導き、違反をしないようにさせる。</p> <p>(6)薬物乱用防止教室・防犯教室を実施する。</p>	<p>(1)生活指導部の役割の明確化、担任及び学年中心の指導体制を構築する。生活指導部は担任指導のサポートをする。ただし、問題行動に関しては機密事項も含まれ、人権問題にも発展するので慎重を期する。</p> <p>(2)頭髪は流行をおわず、本校の生徒らしさを求める。リボン・ネクタイ忘れ、制服のボタン留忘れがないようにするための声がけをする。化粧は、外見を飾らず内面を磨くことに努めさせる。</p> <p>(3)さわやかな挨拶や相手を思いやる言葉がけを目指す。</p> <p>(4)常に時間に余裕を持ち、5分前行動を心がけるよう指導する。また、健康管理にも気を配る。</p> <p>(5)失敗や間違いを正しく理解し、素直な心で改善する。また、思いやりの心を育み、人にやさしい人間づくりを目指す。</p> <p>(6)外部より講師を招き啓発活動を行うトラブルに巻き込まれないよう、正しい知識を身に着ける。防犯については「SNS」に重点を置き、加害者にならないよう注意を促す。</p>	<p>(1)学期中を目指したい。</p> <p>(2)継続して取り組みたい。</p> <p>(3)今年度中を目指したい。</p> <p>(4)今年度中を目指したい。</p> <p>(5)今年度中を目指したい。</p> <p>(6)高1を対象に1学期実施予定。</p>	<p>(1) B</p> <p>(2) C</p> <p>(3) B</p> <p>(4) C</p> <p>(6) B</p> <p>(6) A</p>	<p>(1)引き続き内容の検討を行う。特に、性差の問題、二重罰については慎重に進めていきたい。</p> <p>(2)男子の頭髪でツーブロック(かぶせ)が多くなってきている。ネクタイ・リボンは1年当初は多くみられたが、減少してきている。</p> <p>(3)徐々にではあるが、声を出して挨拶をする生徒が増えてきているように感じる。</p> <p>(4)駆け込み登校が少し減少したが、解決には至っていない。配慮を要する生徒の遅刻数が増加傾向である。</p> <p>(5)指導生徒には、禅語を多く読ませるようにした。良い方向に導いていきたいと考える。</p> <p>(6)新たに鉄道での迷惑行為(痴漢)についての教室を実施。</p>
進路指導	<p>(1)進路学習の見直し</p> <p>(2)基礎学力の向上</p> <p>(3)Uゼミの安定実施</p> <p>(4)本校生徒の現状把握</p> <p>(5)生徒保護者への情報提供</p>	<p>(1)進路LHRと進路探求の連携について検討</p> <p>(2)スタディサプリや進研デジタルサービスなどのデジタルコンテンツの利用法の検討</p> <p>(3)合理的な運営法の検討</p> <p>(4)進学状況及び志望動向の分析</p> <p>(5)Classiを利用した情報の提供及び進路行事の検討</p>	<p>(1)進路LHRと進路探求の連携実施計画の立案</p> <p>(2)デジタルコンテンツの利用法についての年間計画の立案</p> <p>(3)2学期末を期日とする</p> <p>(4)資料を作成する</p> <p>(5)新たな進路行事の実施</p>	<p>(1) C</p> <p>(2) C</p> <p>(3) B</p> <p>(4) B</p> <p>(5) A</p>	<p>(1)実施計画の検討は行ったが立案には至らなかった。</p> <p>(2)年間計画の検討は行ったが立案には至らなかった。</p> <p>(3)運営法について検討を行った。引き続き、実施に向け準備を進める。</p> <p>(4)進路状況等資料の作成は行ったが、有効利用出来ていない。</p> <p>(5)高校2年生を対象とした進路ガイダンスを実施した。他学年についても引き続き、検討を進める。</p>
入試対策	<p>(1)塾・中学校訪問を中心としたより効果的なアプローチの検討。</p> <p>(2)入試説明会等の日程、内容の吟味とプレゼンテーションのあり方についての研究。</p> <p>(3)新しいタイプの入試方法を検討する。(資格取得者の点数化あるいは優遇措置も含む)</p> <p>(4)中学入試の日程及び広報等に関する提案。(一般学力型・適性検査型・自己アピール型)</p> <p>(5)入試関連行事において、関係各部署と情報の共有化を図る。</p>	<p>(1)渉外担当で各エリアの全塾、全中学校を訪問する。</p> <p>(2)他校とのバッティング、内容の再確認(在校生、卒業生、保護者の登壇等)をし、より効果的な説明会を実施する。</p> <p>(3)特に中学入試に関して、他エリアの現状を研究しながら実施可能なさまざまなタイプの入試方法を検討する。</p> <p>(4)中学入試分析セミナー等に参加し、入学生が増える入試日程や方法を検討し実施する。</p> <p>(5)情報の共有を会議、レジュメ、クラッシーを通じて強化する。</p>	<p>(1)受験生、新入生の定員確保。高等学校専願者を増加させる。</p> <p>(2)より効果的な説明会を実施する。</p> <p>(3)実施可能なさまざまなタイプの入試方法を検討し、実施する。</p> <p>(4)入学生が増える入試日程や方法を検討し実施する。</p> <p>(5)入試関連行事の滞りのない運営。</p>	<p>(1) B</p> <p>(2) B</p> <p>(3) C</p> <p>(4) B</p> <p>(5) C</p>	<p>(1)色々な、場面・場所での広報活動を実施した。今後さらに広げたい。特筆すべき点は開成教育セミナー様の中学校入試適性検査型校内模試に校舎の貸出しを実施した。その結果、適性検査型での受験者、入学者は増加した。</p> <p>(2)中学校、高等学校の説明会では、生徒が前面に出る場面が多々見られるようになった。今後卒業生、保護者の登壇や塾対象説明会での生徒の起用(授業と並行なので動画の起用)も考えていかなければならない。</p> <p>(3)特に新しい入試方法は実施していない。今後中学校入試においては、自己アピール型においてスポーツ分野も可能にする。資格取得者の点数化あるいは加点制度等を検討していかなければならないのではないか。</p> <p>(4)中学入試分析セミナーに参加し、現在のところは現行の入試日程が最適と思われる。</p> <p>(5)プレテスト、入試において入試対策部からの情報がうまくICT係に伝わらず、資料作成等で正確な資料が作成できなかった。</p>

ICT	(1) BLEND の利用促進 (2) 観点評価処理の構築 (3) 成績処理の円滑化 (4) 入試処理の円滑化 (5) 生徒の Pad 利用促進	(1) Classi 等を用いての周知徹底を行う。 (2) モチベーション社との打ち合わせを入念に行う。 (3) 成績入力後の確認の徹底を行う。 (4) 入試に向けて準備の徹底を行う。 (5) 教員向け研修を行う。	(1) 出欠未登録の減少 (2) 1 学期末までの完成 (3) 成績訂正の減少 (4) 処理時間の短縮 (5) 1 日の授業時数の半数での iPad 利用	(1) A (2) C (3) B (4) B (5) D	(1) BLEND 採用 2 年目となり利用頻度も増え出欠未登録等も減少した。 (2) 複雑な算出方法の為、成績処理システムが完全に完成したのは 3 学期となった。 (3) デジタルで採点している教員が多くなり成績訂正も大幅に減少した。 (4) 入試前にシミュレーションを数度行い、処理時間を短縮できた。 (5) 教員研修は出来なかったが、iPad 利用に慣れてきた為、教員、生徒とも利用頻度が上がった。
総合的探究	(1) 「総合的な探究の時間」の内容や意義を理解させる。 (2) 探究課題を積極的に見つけさせる。 (3) 課題解決に向かう主体的な姿勢を身につけさせる。 (4)地域・社会貢献への意識をもたせる。 (5) 結果をまとめ発表できる表現力を身につけさせる。	(1) 会議・ガイダンスで説明を周知徹底する。 (2) 創意工夫により事実を理解させ、問題意識をもたせる。 (3) 実例をあげて主体的に取り組ませる。 (4)社会・環境情勢に興味をもたせる (5)各学年、生徒各自で探究学習の記録を残させる。	(1) 全学年・クラスで総合的な探究の時間に取組む。 (2) 探究課題の設定を行う。 (3) 情報の収集と分析・整理を重視する。 (4)探究課題の考察と総括を行う。 (5)クラス・学年全体の単位で発表させる。	(1) B (2) B (3) B (4) C (5) A	(1) 全クラスでの実施にあたって、教員対象の研修会や新入生へのオリエンテーションでの説明を行ったが、その意義の周知徹底には至らず、さらに進める必要がある。 (2) クラスやグループごと、あるいは個人で、課題やテーマを設定させた。身近な問題に意識を向ける機会を増やしていくべきである。 (3) 情報の収集や分析の手法は身につけさせることができた。高 2 学年では修学旅行に関する活動を主体的に行う生徒が多く見られたが、プログラムの内容等は生徒が自ら取り組むようなものを選定し導入したい。 (4) 地域・社会の課題についての考察を深めるには至らなかった。社会や環境についての興味を持たせ、自らの生活と結びつけて考えさせたい。 (5) 高 1 では各クラスで教材を用いて発表やプレゼンの実践を、高 2 では異文化理解についてグループによる発表を行い、共有した。今後も生徒が表現する機会を設けていく。
広報戦略	(1) 学校案内、ポスター等の作成 (2) プレテストの案内チラシの作成 (3)保護者・入学生徒へのアンケートをもとに web 広告、デジタル広告の精査 (4)上宮ブランドの構築 (5)次年度のパンフレット業者選定	(1)年度の早い段階での完成 (2)デザイン性が優れ、プレテストに参加したいと思えるようなリーフレットをデザインする。 (3)広告案についての研究を進める (4)上宮と他校との差異を掌握 (5)次年度以降にスムーズに移行。	(1) 中学パンフは 4 月下旬、高校パンフは 5 月下旬の完成予定 (2) 他校との比較研究 (3) 広告研究 (4) 会議での意見を集約する。 (5) 管理職・5 部長での決定。	(1) B (2) B (3) B (4) B (5)B	(1) コース編成の新たな案が出たため、完成までに多くの時間がかかった。 (2) 斬新なデザインのチラシが完成した。校内見学会の内容や時間をさらにわかりやすく提示する必要がある。 (3)費用対効果の高い効率のいい広告が出せた。受験 WEB サイトには多くの受験生が関心を持っていることがわかった。 (4) 上宮と他校との差異を明らかにし、アドミッションポリシーなど具体的な取り組みを提示することが、上宮ブランドの構築につながると思う。 (5)新しいパンフレット業者にスムーズに移行できた。
図書館運営	(1) 昨年度以上の貸出冊数をめざす。中高合わせて 7000 冊をめざしたい。 (2) 古く、近年貸し出しがされていない蔵書は極力減らしていく。 (3) 紀伊国屋書店との連携を取り、図書館運営を生徒にとって有意なものにしていく。 (4) アクティブラーニングスペースを有効活用してもらい、有意義なスペースにしていく。 (5) 放課後の図書館の使用方法を今後見直していく。	(1) LIBSTAGRAM や図書館報などの呼びかけで図書館に来る生徒数を増やしていく。 (2) 過去 3 年間借りられていない書籍をピックアップする。 (3) 月に一度の会議を行っていく。 (4)中学だけに問わず、高校の各教科の先生にも活用してもらう。 (5)コロナ渦で使用時間の短縮が常とされている中で、テスト前などの使用方法の改善に努める。	(1) 7000 冊以上 (2)100 冊以下 (3)年間 12 回 (4)1 日 1 時間以上の高校授業 (5)生徒にアンケート評価の実施	(1) A (2) B (3) A (4) B (5) B	(1)貸出冊数の目標達成ができた。 (2) 書庫整理も含めてまだまだ課題は残る。しかし、赤本の処分においては大方片付いた。 (3) 紀伊国屋書店との連携を取りながら定例会は行えた。 (4)自習時間を中心に活用していただけた。 (5) コロナも落ち着きパーテーションを今後どうしていくかの課題が残る。

人権教育	(1)人権教育を特定のホームルームのみに委ねることなく、教科指導・特別活動・部活動等、全ての教育活動において意図して推進する。	(1)生活指導部・教育相談係と連携する。	(1)生徒の平常の生活状況・言動・交友関係・「生活・いじめアンケート」結果の観察	(1) C	大きな問題はなかったものの他分掌と連携しての活動はできなかった。
	(2)有効な教材作成と参加型学習・視聴覚教材の活用により、人権問題の正しい理解と人権感覚の向上を目指した人権教育 LHR を企画する。	(2)「人権教育大綱」を作成し、推進機構(組織・会議・構成員)・基本方針・本年度重点目標・年間計画を明示する。	(2)4月人権教育企画推進委員会で提案承認・全教職員への原案公示・意見集約を経て、7月人権教育推進会議で決定	(2) A	評価指標通り推進できた。
	(3)自己と他者との違いを認め、多様性を尊重し、他者を思い遣る心の涵養を図る。	(3)教職員研修に寄与するべく、大阪私立学校人権教育研究会の概要と課題別研究委員会の内容を周知徹底し、また、人権教育基本精神啓発資料を作成する。	(3)「人権教育大綱」に盛り込み、周知徹底	(3) A	7月人権教育推進会議で「人権教育大綱」を配布,説明・BLEND リンク集に掲示した。
		(4)教職員研修要素を加味した推進会議を企画する。	(4)私学人研他 校外研修会参加者からの研修内容の報告・研修資料配布 等	(4) B	不十分であった。
		(5)適切な教職員研修会を企画する。	(5)喫緊の研修内容を提供する講師の招聘	(5)A	2024 年4月より法的義務となる「合理的配慮」理解の一助となる研修会を12月に実施した。
保健管理	(1)「生徒が自分の体と心の健康を意識しながら、守り、作る」を重点とした健康づくり	(1)健康診断の意義、疾病の予防と治療に努めさせる	(1)健康診断の結果、受診勧告を速やかに作成し、配付する	(1) B	(1) 健康診断受診率は高い。心疾患や腎疾患の結果報告は速やかに返ってくるが、歯科の受診勧告に対する受診率が低い。今後検討を要する。
	(2) 心身の健康について、自ら考え自己管理できる生徒の育成	(2) 心の健康問題の早期発見に努め、早期対応できる支援体制を構築する	(2) 個に焦点を当て、個人に配慮した支援をする	(2) B	(2) 身体症状を呈する一因として、心の悩みは大きい。増加する生徒への傾聴に努めた。
	(3) 生命・体の大切さを発信し、健康リテラシーの定着を図る	(3) 救急処置・救命講習会・性教育等を通して、理解・実践を深める	(3) 来室生徒にとどまらず、教員研修にも繋げる外部講師による「性教育」また、体育科と協働し、「がん教育」から理解を深める	(3) A	(3)中高の「思春期教室」「がん教育」は生徒の受講態度が大変よく能動的に参加した。講師から好評を得た。 次年度、教員の普通救命講習会を実施する予定である。
教育相談	(1) 係員個々人のスキルアップ	(1) 研究会・研修会への参加	(1) 参加後の振り返り	(1) C	(1) 3回実施されたカウンセリング研究会の研修に参加し、自己研鑽を積み努力できた。
	(2) 教職員の臨床的視点の醸成	(2) ①研修会・担当者会議の実施 ②SC との連携	(2) ①生徒理解とその支援 ②生徒理解とその支援	(2) C	(2) 支援会議等を適宜開き、共通理解を図ることができた。
	(3)「ホップの会」実施	(3) 学期に1回の実施	(3)保護者同士の心理的交流	(3) B	(3) 同質性の高い保護者同士が集まることで、横、縦のつながりができ、保護者の精神的安定につながり、これが生徒への支援にも通じる。
特別支援	(1) 係員個々人のスキルアップ	(1)研究会・研修会への参加	(1)参加後の振り返り	(1) C	(1) 3回実施されたカウンセリング研究会の研修に参加し、自己研鑽を積み努力できた。
	(2) 教職員の臨床的視点の醸成	(2) ①研修会・担当者会議の実施 ②SC との連携	(2) ①生徒理解とその支援 ②生徒理解とその支援	(2) C	(2) 支援会議等を適宜開き、共通理解を図ることができた。
	(3)個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成	(3) 次年度への引継ぎ資料として使用する	(3) 共有事項の周知徹底を図る	(3) C	(3) 担任に classi で情報提供の依頼を行い、円滑に進めている。
生徒会	(1) 教員間の情報の共有化	(1) 会議資料を充実させる	(1) 記録を作り報告する	(1) B	(1) 3名の先生方のご体調悪化などがあり、手探りの作業が多々あった
	(2) 学校行事における生徒会業務の内容の吟味と効率化	(2) 内容を洗い出し、最善策を検討	(2) 報告書の作成	(2) B	(2) 文化祭内のイベントなどを増やした。楽しんだ生徒も多いが、多忙になった役員もいた
	(3)効率的な体育大会の実施方法	(3)体育科教員からの意見を求め、安全に実施できるように進める	(3)アンケート調査	(3) B	(3) 体育大会については多数改善点があったため、来年度にはより良く運営したい
	(4) 効率的な文化祭の実施方法	(4) 多くの教員からの意見や、生徒からの意見も参考に進める	(4)アンケート調査	(4) B	(4)(2)にも記入したが、イベントを増やした。担任への連絡事項など、もっと要項を精査したい